

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和4年 1月 29日

事業所名 BLUE PLAYS

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0		
	2 職員の配置数は適切である	3	2		・ハローワークに求人を出している。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	2	・カバンや上着置き場、場所名などを文字・イラストで表示しているほか、ラインテープやパーテーション等で区切っている。	・バリアフリーについては不完全であるが、資金的問題から限界がある。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	1	・ 出社後、必ずアルコール消毒等を行っている。	・ 今後も定期的に清掃を行い、清潔な環境作りに努める。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	1	・ 1か月に1度、全員参加の職員会議を行っている。	・ 今後も全員参加の職員会議を行い、PDCAサイクルに広く職員が参画できるよう努めていく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	0	5		・ 新規事業所であり、回答時には未実施であった。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	4		・ 新規事業所であり、回答時には未実施であった。今後、公開する。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	4		・ 現状、第三者評価は実施していない。 ・ 運営が軌道に乗ってきたら検討したい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	・ 1か月に最低1回、現場職員で職員研修を行っている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	0	・ 児童発達支援管理責任者が保護者と面談の上、計画を作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	・ 「発達段階アセスメントシート」や、「S-M社会能力検査」等を活用している。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	0	・ 職員研修にて児童発達支援ガイドラインの読み合わせを行っている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0	・ 毎利用日、各目標ごとに評価を行い、児童発達支援計画に沿った支援を行うよう意識している。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	3	2	・ 運動プログラムについては、代表取締役が立案し、当日のリーダーがアレンジして活動プログラムを決めている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	・ 運動療育においては、反復練習が大切であるため、子どもの発育・発達の基盤となる『発達動作』はあえてメニューを固定化させている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	0	・ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1	・ 送迎等の関係でできない日もあるが、できる限り確認している。	・ できる限り、継続していく。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	3	・ 支援の振り返り等は、当日できないこともあるが、翌日や会議等で行っている。	・ 勤務体制上、必ず当日に打ち合わせをすることは困難であるため、翌日や会議等で共有することを継続していく。
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	・ 毎日、サービス提供記録を記入し、保護者にも共有している。		

	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	0	・保護者と面談を行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	・管理者・児童発達支援管理責任者が出席している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	1	・保育園や幼稚園に個別支援計画を共有するとともに、電話連絡を行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	0	・受け入れていない。	・今後も受け入れの予定はない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	0	・受け入れていない。	・今後も受け入れの予定はない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	2		・必要があれば、相談支援専門員と連絡調整を行い、サービス担当者会議を開催する。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	2		・必要があれば、相談支援専門員と連絡調整を行い、サービス担当者会議を開催する。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	4	・連携している事業所もある。	・更に連携を強化するよう、児童発達支援責任者から働きかけるよう努める。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	5		・新型コロナウイルスの終息後に検討したい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	5		・自立支援協議会の委員に選出されていないため、正式参加はできない。 ・今後、傍聴参加を検討したい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	・毎利用日、HUGで子どもの状況を保護者と伝え合い、共通理解を持っている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	3	・ペアレント・トレーニングは実施していないが、助言は行っている。	・職員各々が自己研鑽を積み、家族支援について助言できるよう努めたい。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	・丁寧な説明を心掛け、質問に何度でもお答えしている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0	・個別支援計画を保護者とともに読みながら説明し、同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	・月1回、保護者の希望があれば面談を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	5		・新型コロナウイルスの状況が落ち着き、事業所運営が軌道に乗った段階で検討したい。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	・児童発達支援者が一元的に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	0	5		・会報を作成する時間的・人的余裕がないが、事業所が軌道に乗ったら実施したい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0	・研修を実施し、個人情報管理に対する意識を高めるよう努めている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	・電話・HUG等、複数のツールを活用している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	5		・新型コロナウイルスの状況が落ち着き、事業所運営が軌道に乗った段階で検討したい。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	0	・マニュアルを作成し、避難訓練等を実施している。	・マニュアル作成はしているが、保護者への周知は行っていない。新年度スタート後、HUGを通して周知したい。

非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	・避難訓練計画書を消防署に提出し、実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	0	・アセスメントシートや個別面談で把握している。 ・健康観察票に毎月服薬について記入してもらっている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1		・アレルギーについては把握しているが、指示書は頂いていない。今後検討する。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	1	4	・ヒヤリハット情報を集約できるよう、Googleフォームを作成中である。	・来年度から、Googleフォームによるヒヤリハット事例の集約を開始する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切に対応をしている	5	0	・虐待防止研修、チェックリストの記入を実施している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	1	・身体拘束の規定を作成している。	・必要がある場合、十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載する。